



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市翠町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.3.7 No. 3361

「家族に過酷な思いをさせて...も、なぜ聞いづけるのか」 熱い連帯の絆深めたるる集会



争議団(動労千葉)、闘争団(国労)が心ひとつに

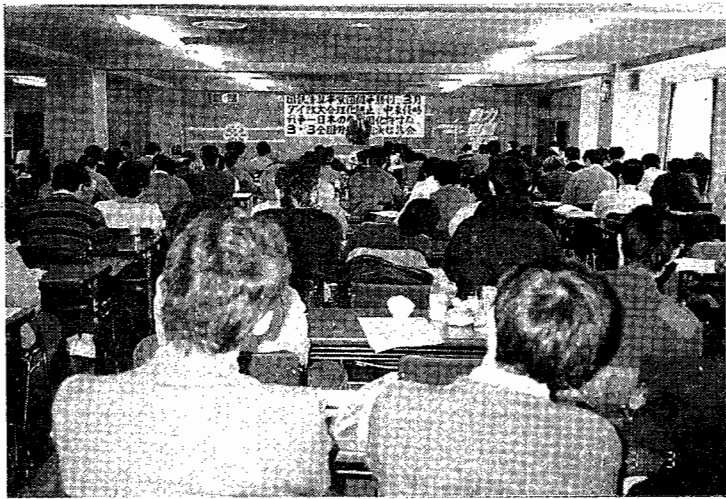
食いいるように聞き入った
三好先生の話(北海道教育大、名誉教授)



「労働運動の原点へ」と訴える佐藤芳夫氏

し、労働運動の原点に帰って闘おう。事業団の仲間は想像をこえる困難で闘っている。同情でなく、われわれ自信の闘いとして共にがんばろう」と訴えられた。つづいて、集会に遠い北海道から駆けつけてくれた三好先生の講演に入った。先生の静かだが、確信にみちた語りぶりと、清算事業団の仲間と家族への限りない愛情・連帯感あふれる講演にはセキばらい一つ出ず、メモを取るなど真剣に聞き入った。

三・三全国労働者集会は、二六〇名が会場をうずめるなか、緊張と感動、時には清算事業団の仲間たちの切々と訴える一語一語と決意に目がしらを熱くしながら、「ヨーン、怒りも新たに俺もヤルゾ」と胸を熱くし、腹の底から決意をうち固めた画期的集会となった。冒頭、主催者を代表し、佐藤芳夫氏(全国交流センター代表・運営委員)はキツパリと「義(正義)を見てせざるは、勇(気)なきなり、労働者の解放をめざ

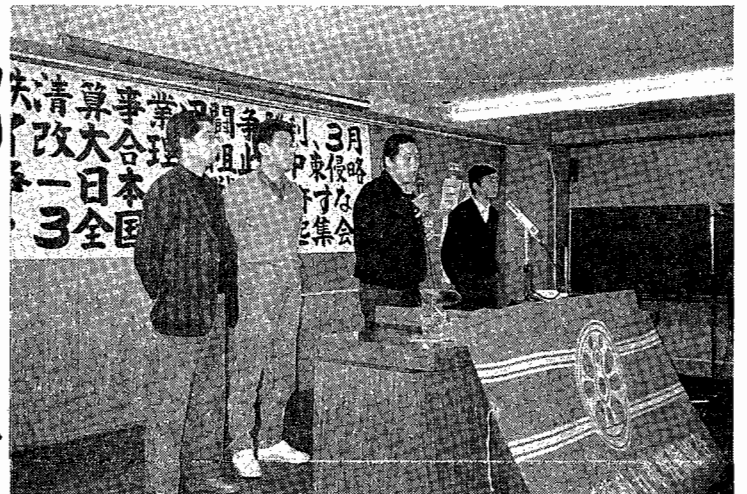


260名が入った会場は、三好先生の講演の声が静かに伝わり、参加者も真剣に聞き入った。

「何のために家族までかくもさびしい思いをさせながら頑張っているのか。動労千葉のような労働組合を創造するためだ」
「紙一枚で首を切るなんて許せない。自分で選んだ道です。厳しくとも決して

東京の空の下でアルバイト
—争議団の決意—

故郷を想いながら...



動労千葉争議団を代表して高石さんより「国労闘争団と連帯して闘う」と決意が述べられた。(左より、相原さん、塩崎さん、高石さん、中村さん)